

シニア

血管内治療 高い効果

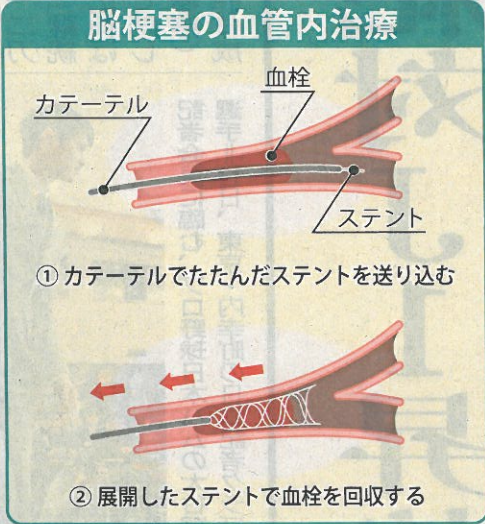
脳梗塞の血栓除去

脳の血管が詰まり、体のまひなどの後遺症を招く脳梗塞。近年、脳の血管に詰まった血栓(血の塊)を溶かす薬物療法に加え、カテーテル(細い管)を使って血栓を回収する血管内治療が成果を上げている。徳島大学病院脳神経外科の里見淳一郎准教授に治療法を聞いた。(山口和也)

徳島大学病院脳神経外科

里見准教授に聞く

脳梗塞の中でも重症化 脳の太い血管で詰まりやすいのが、心臓にできた血栓が血流に運ばれて脳が広範囲にわたってダメージを受けやすく、生命に関わることもある。主な治療法として、血管に詰まった血栓を溶かす「tPA(アルテプラ)



薬と併用で後遺症軽減

「ゼ」と呼ばれる薬がな血栓にも効果は期待で用いられてきた。点滴できず、使用条件が限られ静脈から投与し、血栓を溶かして血流を取り戻す薬物療法だ。

しかし時間が経過するほど、血流が止まった先の血管で出血の恐れが高まることから、tPA薬の血管を詰まらせていける治療に比べて障害の程度が軽くなることを示す。tPA薬が

「卒」の字が「突然」を意味するように、急に話せなくなったり、手足が動かなくなったりする。とりわけ脳梗塞は、脳卒中全体の7割を占め、年間約9万人が亡くなっている。「一過性脳虚血発作(TIA)」と呼ばれる発症の前兆が現れることもあり、見逃さないよう注意したい。

発症の前兆 見逃さないで

TIAは、脳に流れる血液が一時的に遮断されるために起きる。脳梗塞の一手前ともいえる危険な状態だ。主な症状は▽片側の顔や手足が動かなくなる▽片目だけが見えにくくなる▽言葉が出なくなる。通常は、10分程度で回復する。

TIAが起きた人の10~15%は3カ月以内に脳梗塞にな



り、このうちの約半数は48時間以内に発症するとされる。徳島大学病院の里見淳一郎准教授は「症状が治まったから」と話している。

中協会も9月下旬の治療指針改定で、一定の条件を満たす患者には血管内治療を併用するよう推奨している。

血管内治療により、治療可能な時間が延長されるメリットは大きい。ただし、時間が経過するほど治療は難しく、後遺症にも影響する点は変わら

ない。里見准教授は「脳梗塞は、いかに早く血流を再開できるかが鍵を握る。症状に気付いたら一刻も早く救急車を呼んでほしい」と呼び掛けている。